

令和7年度 児童朝会 講話

■令和8年 3月9日 No.28「ことば3」

おはようございます。3月も9日になりましたが、今朝はとても寒いですね。今日は講堂が卒業式の準備に入っていますので、3年1組から放送いたします。

まずは、子ども会のソフトボールと、キックベースボールの賞状伝達を行います。両チームともよく頑張って、素敵な賞状をいただいております。おめでとうございます。

第20回「いいとこみつけたよ♪」では、まず2年生のお友だちのパックン清掃から。なんと廊下の溝にたまったほこりをはき出してくれていました。ありがとうございます。これこそ、パックン清掃ですよ。当然、このお友だちは先生に「溝そうじして」とは言われていないはず。自分で汚いなあと考えたからこそ、そこをしているわけです。本当にありがとうございます。

このあとは、いつものように、「つながって学んでいる」皆さんの良い表情を紹介します。みんな本当に学び上手ですよ。これは、4年生のお友だちが国語の「世界一美しいぼくの村」を音読しているところですが、みんな丁寧に指で文字を追いつつながら音読していました。これをなぞり読みと言うのですが、こうすると、文章の内容がとてもよく頭に入るのですね。すばらしいですね。

今日は「なぜ人類だけが言葉をしゃべることができるのか」「赤ちゃんはどうやって言葉をおぼえるのでしょうか？」ということを考えていきたいと思ひます。

さて、先週のお題は「人類は敵を早く見つけるために、後ろ足で立ち上がったのですが、そのことでいいことがあったのは何かわかりますか？」というお題でした。このことは、あとでお話しします。今日は「なぜ人類だけが、言葉をしゃべることができるのでしょうか？」「赤ちゃんはどうやって言葉を覚えるのでしょうか？」ということについて考えていきたいと思ひます。

それでは、先週のお題、後ろ足で立つとどんないいことがあったのか？というお題ですが、今回もたくさんの回答を書いてくれました。ありがとうございます。その中で2つほどするどい回答がありましたので、紹介いたします。1つ目は「戦えるようになった」というものです。後ろ足だけで立つと前足が自由になり「手」ができました。その手で武器や道具を持って、ライオンなどと戦ったのでした。よくこのことに気が付いたと思ひます。2つ目は「脳みそが上にあるとかしこくなるから」というものです。これも、大変いいところに気が付いたと思ひます。人は重たいものをもつとき、できるだけ体に近いところ、あるいは頭の上でもちますよね。体から離すと重たく感じます。このことは人類の進化にとっても深い関係があります。馬やチーターなどは体の斜め前に頭があります。一方猿人は体の上の方に頭があります。原人、旧人と進化するたびにどんどん頭は体の上にくるようになりました。そうすると、重たい荷物がもちやすいように、頭はどんどん大きくなり、かしこさも伸びていきました。このことは授業中の姿勢にも言えることです。先生の話をするときは、良い姿勢で聞くと、かしこくなりやすいのですね。

後ろ足だけで立つと、姿勢がよくなりかしこくなりましたが、頭も大きくなり、そのため困ったことが起こりました。お母さんが赤ちゃんを産みにくくなったのです。でもみなさんは無事に産まれてきています。お母さんはどうやって頭が大きくなった赤ちゃんを産んだのでしょうか？

お母さんは、赤ちゃんの頭が大きく育つ前に産むことにしたのです。

そもそも後ろ足だけで立つようになって、大きなおなかを長い間維持するのが難しくなっていました。だから人類は他の動物にくらべて、だいぶ早く産むようになりました。(諸説あります)他の動物は生まれてすぐに立ち上がりますが、人類の赤ちゃんが立ち上がるのは、だいたい1年後です。赤ちゃんは生まれてくるのが、少し早すぎるとも

いえます。このことをはじめ、人類の赤ちゃんは他の動物とちがって、何もできない状態で生まれるようになりました。お母さんをはじめ、まわりの大人がとても長い間お世話しないと生きていきません。このお世話するときに、たくさんの言葉をかけます。泣いていたら「まんまでしゅか？」

「絵本読みましゅか？」などなど。このように、赤ちゃんをお世話するときに、たくさんの言葉をかけるのですが、赤ちゃんがしゃべりだすのは1歳ぐらいからです。1年間赤ちゃんは聞いているだけで言葉を覚えていくのです。

他の動物より長い間たくさんのお世話をしないとけない人類の赤ちゃん。だからこそ、しゃべれない赤ちゃんの気持ちをくみ取るために、言葉をたくさん使うようになったと考えられています。(諸説あります)

それでは、人類が最初に言葉をしゃべったのは、どんな時だと思えますか。これを今週のお題とします。もしよかったら、校長室前のボードに書きにきてください。

今日も最後まで静かに話をきいていただき、ありがとうございました。